

セメント・同製品製造業における激突され災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労 働 者 規 模
1	13～ 14	工場内の製品出荷前置場で、基礎杭の鉄金具清掃作業（サビ取り）をしているとき、研削機（グラインダー）にワイヤーブラシを装着して操作・サビ取り作業をする際、着用指示を受けている保護員（防じん用メガネ）が着用せずに作業した為、サビ取り中に回転させているワイヤーブラシの破片が飛び、右目眼球に刺さり負傷した。	52	30 ～ 49
1	15～ 16	工場内で、残コンで作成するブロック型枠を掃除中に、足元に型枠が倒れかかって足指先に当たり骨折する。	57	10 ～ 29
3	15～16	工場打設機内を掃除をしていた時、床の蓋（鉄板）を整えようとして（蓋は数枚ある）、持ち上げた蓋に隣の蓋が引っ掛かっている、引っ掛かった隣の蓋を足の上に落として負傷した。	33	50 ～ 99
4	13～ 14	工事現場で杭打設のため荷卸しをしようと坂道をバックで登ろうとしたが登れず、途中で停止した。停止した状態から再度登ろうとした際に自分の感覚ではバックしているつもりだったが、生コン車はノッキングの様な状態になりバウンドをしながら下った。下り終えても約15m先に安全停止するまでバウンドを3回位したが、3回目で腰に違和感を感じた。	70	10 ～ 29
7	11～12	当社工場内において、コンクリートブロックの製品を製造作業中、製品が仕上がったので型枠を左右に開いて外そうとした際、外した金具が足の上に倒れてきて、右足の中指つけねが挟まり負傷した。被災者も金具が倒れることを知っていて、足に当たらないよう避けていたつもりができておらず、ちょうど安全靴の足先の硬く	34	10 ～ 29

		ないところに金具があたり負傷した。		
7	14～ 15	工場内において、コンクリート製品を型枠から外す作業中、製品と型枠の間に鉄の棒（長さ73.3cm、直径3cm）を差し込み、押し上げた時に手が滑り、鉄の棒で下顎を強打し負傷した。	58	10 ～ 29
9	8～9	本社工場のコンクリート製品の製造ラインで、鋼製の型枠を開く作業をしていて、側板がある程度開いたところで、本来なら側板が当たらないように足を退避させておくべき所を、そうしないで側板から手を離れたところ右足の甲に側板が当たり被災した。	42	1～ 9
10	16～ 17	工場内にて、脱型後のコンクリート製蓋（1130×500×180mm・200kg）をクレーンを使って縦から横にしようとした時、吊り金具（アイボルトM20）のネジの入れ込みが少なく、はずれ、倒れてきた。コンクリート製蓋が左足脛に当たり負傷した。	53	100 ～ 299

出典： https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html